

# 豊寿園

FRUITFUL TREE

# 豊かな樹

Spring 2023

Vol. 58

JAPANESE RED CROSS

SOCIETY FUKUOKA

PREFECTURAL CHAPTER

THE SPECIAL NURSING HOME

HOUJYUEN

TOPICS/

AREA INFORMATION

HOUJYUEN×FAMILY

HOUJYUEN'S ALBUM



## トピックス

T O P I C S



## 新型コロナ陽性者の発生について

3月15日に、特養1階にて利用者様から新型コロナウイルス陽性者が発生しました。嘱託医指示のもと、濃厚接触者とともに居室隔離をさせていただきました。幸い、その後陽性者の症状も改善し、陽性者の続発もなく、3月27日にて全面的に隔離対応は終了いたしました。利用者様ならびにご家族の皆様には大変ご心配をおかけいたしました。5月からは感染症法上の分類変更も行われますが、引き続き、園内での感染予防には万全をきたしてまいりますので、引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 実習生の受け入れを行いました！

北九州市小倉北区にある慶成高等学校福祉課から実習生の受け入れを行いました。今回は2年生のお二人で3月28日から4月5日までの8日間、特養内で様々な介護に関する知識や技術を学んでいただきました。若いお二人の真剣で真摯な姿勢を見て職員も大いに刺激をいただきました。



## 令和5年度 辞令交付式を行いました！

桜が満開の豊寿園では辞令交付式を行いました。

- 【転任】  
 福田 康 豊寿園經理係長  
 ⇒ 嘉麻赤十字病院 医事課長
- 【異動】  
 財前 剛 豊寿園庶務係長  
 ⇒ 豊寿園經理係長
- 【昇任】  
 森 英樹 介護課長職務代理  
 ⇒ 介護課長 兼 デイサービス管理者

## 地域ぶらり情報



## 安らぎの時間を

清滝地区山手側の、石塀が続く細い路地を歩いていくと隠れ屋のようないくつかのお店があります。その一画に『Café umi』があります。古民家をリノベーションした店内は、雑貨や植物と心安らぐ音楽が流れ、とても居心地のよい空間になっています。実は居心地の良さを演出するために、テーブルや椅子の高さにもこだわっているそうです。ランチでは、オーナーさんの出身地奄美大島の郷土料理【鶏飯】（けいはん）が食べられます。鶏ガラ、ミネラルたっぷり海の塩、生姜、椎茸だし汁使って弱火でゆっくり3～4時間かけて煮込んだこだわりのスープをかけて食べる鶏飯は、心身ともに温まります。また、タンカンの皮を刻んだ薬味を入れると柑橘の香りで味わいが変わります。「子育てを通していまだに勉強させられるし、成長しているんです。と、お店をしながら 子育て中のオーナーさん。同じ子育てをされている方と苦労などを共感でき、少しでも安らぐ時間を提供したいと昨年3月に『Café umi』をオープンされたそうです。もちろんランチやコーヒーを楽しんでいただくだけでも大歓迎とのこと。午前中にはハンドソロジーやイベントを行ったりしていますので、詳細はお店のインスタグラムで確認してください。お店までは細い路地が入り組んでいますので迷子にはご注意ください。

### Café umi

北九州市門司区清滝4-1-16

OPEN 11:00 ~ 16:00

定休日 日 月 隔週土曜日

駐車場 無し

## あしがき

新型コロナウイルスに振り回された3年間。たくさん犠牲を生み、私たちの当たり前を壊していきました。豊寿園でも、それまでの当たり前が当たり前でなかったことを気づかせてくれました。建物から面会中のご家族やボランティアさんの声は消え、積み上げてきた地域の方との交流はなくなりました。行事は屋内での小規模なものばかりとなり、密にかかわることができなくなりました。ただそれももうお終い。今年度は5月の感染症法上の分類見直しを控え、失われた3年間を新しく作りなおす一年です。豊寿園でもコロナ禍で発揮してきたアイデアを武器に、様々なアフターコロナに取り組んでいきたいと思えます。それらの取り組みはすべてこの“豊かな樹”でご紹介していきますので、今後の豊寿園にぜひ、ご期待ください。

豊寿園広報担当 森 英樹



今回表紙を飾ってくれたのは、2階特養棟で勤務されている森崎 雅敦（もりさき まさのり）さんです。介護キャリア20年超のベテラン職員です。家庭を大事にする良きお父さんですが、忙しい時間をぬってノリノリで撮影に協力してくれました

## あなたと向き合った日々

HOJYUEN × Family

今回は、昨年12月に豊寿園でお看取りさせていただきました島津マツ子様の利用開始から最期の時までの経過について、実子であり、一昨年に定年退職された奥水前介護課長の手記をもとにご紹介します。



今回ご紹介する島津マツ子様。行事にご主人と参加された際の一枚。いつもやさしい笑顔をたたえている方でした。

— 結局、入所まで5年を要した。コネは通用しなかった（笑） —

私の母は、平成28年9月1日に豊寿園に入所した。母は長年患っていた腰痛の原因が頸椎狭窄症とわかり、全身麻酔による手術をおこない目が覚めた後、認知症を発症していた。まだ74歳。それまでは、腰痛をかばいながら自立した生活を送っていたが、一気に要介護4までになってしまった。母の両親も認知症だった。祖母は病院で寝たきりの状態で数本の管につながれ終末期を送っていた。そんな祖母を見ながら母が「私にはこんなことしないで」とほつり言った言葉が私は忘れられなかった。

母はレビー小体型認知症で、中期まで記憶を保つことができていた。私は事あるごとに、「食事が食べられなくなったらどうする？」と言う質問を繰り返して、「管は嫌。何もしないで」と母は答えていた。母の想いを全うさせたい。そのためには豊寿園に入所させたいと思つて入所を申し込んだが、結局、入所まで5年を要した。要介護5での入所、コネは通用しなかった（笑）。

— 昨年3月末に退職した後は、面会ができなくなった —

入所後、帯状疱疹や尿路結石による熱発で入院したこともあった。元々、食の細かい母は入院中に食べれない状態となり、病院の先生に「どうしますか？」と療養型への転院を勧められた。豊寿園に戻れば食べれるという確信を持つていた私は、「治療が終われば豊寿園に戻ります。」と伝え、退院後は介護職員のおかげで再び、経口摂取ができるようになっていった。

私は自分の職場である豊寿園に母を入所させていたことで、コロナ禍であっても毎日顔を見ることが状態の確認ができた。けれども、退職した後は、一家族である為、面会ができなくなった。母は言葉は発せなくなっていたが、しっかり声を聴いて、目で追うことができ

ていたため会えないことが不安だった。そんな私の不安は的中した。退職して一カ月ほど経ったところ、体温の低下と食事摂取量が低下してきた、と豊寿園から連絡が入った。

— 父に母のところに来てほしくない、と願った —

方向性は決まっていたので、家族（兄妹）に電話で聞いた母の状態を伝え、看取りの契約をおこなった。3週間ぶりに母と対面。「思ったより元気そう。まだ大丈夫。」と安心した。当初は兄妹や孫などが面会を行っていたが、面会は平日のため、無職の私が代表して定期的に面会をおこなった。食事も少しずつ増え安定してきた中、我が家にコロナ発生。孫、嫁、息子と感染。11日間の監禁生活の後、ようやく母に会えるようになった。その2カ月後、ついに豊寿園にもコロナ発生。母のいるフロアではなかったが、面会が全面的に禁止となった。再び不安。職員の大変さは想像を超えていたが、母のフロアに広がることなく収束。感謝しかありません。その間、他の施設に入所していた父が入院。軽い肺炎で2週間の予定が10日過ぎに急死した。

あつけなく誰にも看取られず病院で亡くなった。本来なら母も葬儀に行くべきだが、何も伝えないことにし、父も何度か豊寿園でショートステイを利用し職員と面識があったので、母に伝えたいようお願いした。豊寿園での看取りをされた方々の、最後を共に過ごさせていただいた時に、手の動く方は必ず上空に手を伸ばしていた。きつと親しかった方が迎えに来ている。亡くなることは決して怖いことや寂しいことではないと私は感じていた。ただこの時は父に母のところに来てほしくない、と願った。

—細々と命を繋いでいるが、表情が穏やかだったことに救われた。—

コロナ収束後、母に会った。約2か月半ぶり。変わっていない母を見て、職員の頑張りに感謝。面会のたびに携帯電話で撮った母の写真を家族に送った。たまに水分が入らなかつた、食事を途中でやめたと連絡をもらった。無理に食べなくていい、誤嚥して苦しませたくないことを伝えた。細々と命を繋いでいるが、表情が穏やかだったことに救われた。

12月に入りなんとか年を越してほしいという思いで、母が一番お気に入り孫に面会させた。分かるのか、いつもと違う反応がある。何か言いたげに口を動かしている。12月中旬、ついに母のフロアーにコロナ発生。今回は厳しくなるかも・・・なんとか年を越してほしいと祈った。母は感染することはなかったが、12月25日低体温、やせてきた印象があると報告。低体温で電気毛布を使用するので、脱水傾向になりやすい仕方がないけれど会えないことが辛い。コロナが憎い。いよいよ、厳しくなってきた。面会を調整してもらえないかお願いした。そんな中でも、心の片隅には会えさえすれば持ち直せると期待していた。母の食事がすでに3日入っていない状態で面会ができた。家族みんなにも面会をさせるのに、何度も出入りがあると園にも、他の利用者様にも迷惑がかかってしまうと考える。研修会議室を開けていただき、そこで母に自分たちが付き添いたいとお願した。すぐに応じてくれ母と私たち家族だけの空間になった。母の状態は半月前と比べると確実に悪い。妹に会いに来るように伝えた。母は声掛けすると目を開け、しっかりとこちらを見ている。水分もほとんど入っていないが、スポンジに好きだったビールを含ませ口腔内を拭いた。「ごくんしたね」と私たちの笑い声。孫やひ孫が次々に来ては面会を済ませていった。たぶん、かなりうるさかつたと思う。妹と話し合い、今夜は私と二人で母に付き添うことにした。

21:00 お気に入りの孫が再び面会にきた。「さっちゃん来たよ」と声をかけると、しっかりと孫の方へ顔を向け、口をパクパク動かしたのを最後に、ふーっと息を引き取った。その瞬間は、涙があふれたが、母の想いを達成できたことに感極まった。看護師と一緒に体を清め、お気に入りの孫が手足にネイルと化粧を施した。その日は園で一晩を過ごし、翌日、医師が死亡を確認した。「年越せなかつたね。じいちゃん迎えに来たんやろ」とみんなで話した。年末なのに、多くの職員に見送られ、6年4か月過ごした豊寿園を旅立った。感謝という言葉では足りない。痩せ細った体と低栄養でありながらも、褥瘡もなくきれいな体。日々のケアや難しい食事介助、口腔ケアを続けてくださったおかげ。母もきつと感謝している。豊寿園との出会いが私たち家族にとって、本当に幸せなことであつたと感じる。ありがとうございます



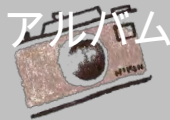
島津様と奥水前課長退職時の記念写真。  
6年間一緒に豊寿園で過ごされました。

## 花見



3月 自慢の桜が開花。春の陽気を感じに中庭へ出かけました

## 豊寿園 アルバム



## ひな祭り



3月 ひな祭りに美味しいスイーツに舌鼓。

## 節分



2月 妙に迫力のある鬼を退治して、今年の健康を祈念しました。

デイサービス

花見



4月 きれいな桜と心地よい風を感じながらおやつを楽しみました。

日常活動



色々な活動を皆さん真剣な表情で取り組まれています。

Spring2023

Vol . 58

TOPICS

AREA INFORMATION

HOUJYUEN\*FAMILY

HOUJYUEN'S ALBUM



# FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOUJYUEN